

# かきがら地蔵と

おもだか いど  
沢潟の井戸

(緒川)

緒川城址の東にある地蔵堂には、「かきがら

地蔵」と呼ばれる木像の地蔵菩薩がまつられて

います。このお地蔵さんは、むかし、そのあた

りが海岸だったころ、かきがらをいっぱい体

つけて流れついたものだそうです。

「お気の毒に、ずいぶん長い間海の中におられ

たにちがいない。」

「もったいないことだ、なむあみだぶつ、なむ



あみだぶつ。」

と、村人たちは、

口々にお経を

唱えながら、こ

のお地蔵さんを

拾い上げ、お堂

を建てて大切に

おまつりしまし

た。

さて、緒川城主は、三代めの水野清忠の代の

ことです。どうしたことか、この清忠は、子宝に

恵まれず、さびしい思いをしております。夫人は、そのことを大変気になされ、城の近くの地蔵堂に、願をかけておこもりをしました。

そして、満願の日となりました。夫人が、地蔵堂の境内にある井戸から水をくんで身を清めようとなさいますと、水面に一茎の沢瀉が浮かび、その葉の上に永楽銭が乗っているではありませんか。

「沢瀉は、水野家の家紋である。永楽銭も水野方の旗印となっている。これは、きつと良いことのあるしるしにちがいない。」

と喜び勇んでその沢瀉と永楽銭をすくい上げ、城に持ち帰って、さらに一心にお祈りしました。

やがて、夫人は身ごもられ、十月十日の後に、丈夫な男の子を生みました。四代緒川城主となる水野忠政です。

忠政は、城主となつてから、このかきながら地蔵のお堂を立派に建て直しました。かきながら地蔵のご利益はますます高まり、おお勢のお参りの人でにぎわうようになりました。そして、夫人が身を清められた井戸は、沢瀉の井戸と名付けられ、この井戸の水を産湯に使うと、赤

ちゃんが丈夫じょうぶに育つそだということことで、井戸水いどみずをく  
みひとにくる人も、あとをたちませんでした。



▼ おもたか  
沢潟の井戸